熊歯会報

Kumashi Kaihou

2011
11
November
No.667

熊本県歯科医師会

熊歯会報 11月号

2011

歯科医師の倫理綱領

われわれ歯科医師は、日頃より歯科医学および歯科医療の研鑽を通じて培った知識や技術をもって、人々の健康の回復と疾病の予防のために貢献するものである。

一、専門職として歯科医学と歯科医療の発展のために尽くし、医療倫理の実践に務める。

一、専門職であることを念頭に、法を遵守し適切な説明を行い、常に愛情を持って患者のために社会的使命を果たすように努める。

一、自己の知識、技術、経験を社会のために提供し、社会福祉および国民の健康向上のために努める。

社団法人　日本歯科医師会

―表紙に寄せて―

ねんりんピック2011熊本の健康フェアのテープカットに出席された宮坂副会長です（左より2番目）。歯の健康相談と口臭測定には3日間で506名の方が訪れました。（H.K）

巻頭言（常務理事　八木　義博）…… 3

シリーズ　一般社団法人に向けて…… 4・5

日歯大久保会長特別講演…… 6・7

理事会 ……8・9

熊本の偉人……10・11

委員会だより ……12～14
（学術、社会保険）

郡市会だより……15～19
（荒尾、球磨、玉名、水俣・芦北、人吉、八代）

つどい ……19

新入会員 ……20・21

会務報告 ……22～24

噴煙

公益法人改革の今後

常務理事　八木　義博

公益法人改革に伴い、熊本県歯科医師会は現在「特例民法法人」という立場にあり、平成25年11月30日までに「公益社団法人」または「一般社団法人」へ移行登記を完了しなければなりません。これまでは、新法人設立検討臨時委員会等において公益社団と一般社団の両方への移行を意識しながら準備、検討して来ましたが、9月に開催された平成23年度臨時代議員会、総会において県歯の一般社団法人への移行方針が可決承認されました。因みに、九州内の他県歯会においても多くが一般社団移行の方針のようです。（鹿児島県歯会は公益社団移行方針）これからは、一般社団移行に絞って準備を進めることになり、具体的には以下のようなことを行います。

1）定款に関して

・法人法上の最高意思決定機関である「社員総会」を会員による総会とするのか代議員会とするのか、会員種別をどうするのか等がポイントになります。

2）諸規則に関して

・会長（代表理事）選出に係わる選挙規則を初めとする整備が必要で、多岐にわたります。

3）会計に関して

・現行は収支計算書が主たる様式ですが、移行後は損益計算書（新新基準）となり、永きに亘り慣れ親しんだ会計様式が大きく変わります。（24年度会計から対応する必要があります）

・会計区分の整理、公益目的財産額の確定、公益目的支出計画の作成等です。

現在、執行部の予定としては、24年10月頃に関係書類を提出し一般社団認可申請を行い、25年４月１日の移行登記完了を目指しています。一方、日歯においてはネックになっていた共済事業（日歯年金、福祉共済）に関して関係方面と調整を続け、公益目的事業として認められる見込みがたったそうです。それにより、９月の日歯代議員会で方向性が確認され、公益社団移行へ向けて動き始めました。ということは、本会も一般社団移行完了後も継続して実際の運営状況、他県歯会、他団体の動向等を注視しながら公益社団移行を常に視野に入れておく必要があります。公益社団移行には収支相償の原則（公益目的事業に係る収入が実施に要する支出を超えないこと）、50％ルール、遊休財産の保有制限等高いハードルが存在します。何れにせよ当面は公益法人改革の呪縛から逃れられそうもありません。少なくとも会員の、さらには県民の不利益にならないよう慎重に、そして確実に進めて行かなければなりません。

シリーズ　一般社団法人に向けて

— 新法人設立検討臨時委員会 —

総会制か代議員会制の選択

公益法人制度改革について、本年９月に開催されました臨時代議員会・臨時総会にお諮りし、一般社団法人へ移行することをご承認いただきました。今後は平成24年10月頃に一般社団の認可申請を行い、平成25年４月１日に一般社団法人に移行することを目指して準備を進めてまいります。

移行に向けて次に決定しなければならないのが最高意思決定機関を総会にするのか代議員会にするのかの選択となります。現在、内閣府から総会と代議員会の２つの決定機関を設けることは相応しくないとの指摘を受けています。法人法上は社員総会が最高意思決定機関と定義されており、今までどおり総会を選択する方法もありますが、団体の事情により代議員会を総会と位置付ける方法の選択が出来ます。

別表は総会制と代議員会制を比較したものです。日歯や九州各県歯においては、ほとんどが代議員制を選択する予定のようです。

執行部といたしましては、総会制と代議員会制のメリットとデメリットを比較し、会議成立のための定足数の確保、会場、会議運営等の問題又経費や事務的な面等を考慮し、代議員会制を選択する方が良いのではないかと考えており、先般の臨時代議員会において説明させていただきました。

今後も総会制と代議員会制のどちらを選択した方がよいか、会員の先生方のご意見をお聞きしながら慎重に検討していきたいと考えております。

〔別表　　※臨時代議員会提出資料〕

総会制・代議員会制の特徴・比較

	比較内容	総会制	代議員会制
1	最高意思決定機関 (定義：法人法上の社員総会)	総会	代議員会
2	構成	すべての正会員	各郡市から選出された代議員（予備代議員)[法人法上の社員] ※郡市会ごとに正会員による代議員選挙を行う。（選出方法は郡市会主体）
3	任期	なし	選任の２年後に実施される代議員選挙終了時迄
4	欠員措置	なし	予備代議員を補充する［法人法上の社員］
5	会議が成立する条件(定足数)	会員の２分の１以上の出席が必要 ※委任状出席可	代議員の２分の１以上の出席が必要
6	決議事項の条件	出席した会員の議決権の過半数 ※ただし、法人法第49条第２項各号に列挙された事項については、総会員の議決権の３分の２以上に当たる多数をもって行う。	出席した代議員の議決権の過半数 ※ただし、法人法第49条第２項各号に列挙された事項については、総代議員の議決権の３分の２以上に当たる多数をもって行う。

	比較内容	総会制	代議員会制
7	議決権	正会員１名につき１個	代議員１名につき１個
8	代理行使	あり 自ら総会に出席できない場合は、代理権を証明する書面を提出（委任状）	あり 予備代議員を代理人とする
9	書面による議決権行使	あり １議案ごとに書面による決議が必要	あり 予備代議員によって議決権が行使される

※６の但し書きで、法人法第49条第２項には、次の事項が列挙されている。
①社員の除名　②役員及び会計監査人の解任（監事を解任する場合に限る。）
③役員等の責任の一部免除　④定款の変更　⑤事業の譲渡　⑥解散　⑦一般社団法人の継続
⑧吸収合併

※８については、総会の公平性、透明性を確保するためには、１名の出席会員は１名分の欠席会員の委任しか受けることが出来ないと限定するか、又は「出席者１名につき○名まで」と条件を付けることが必要とされる。

※総会制の場合、８と９のどちらかを選択するか、もしくは両方を選択することになる。

お知らせ

※ 日本歯科麻酔学会共催 バイタルサインセミナー

〈安心・安全歯科医療推進制度 必須講演会（医療安全・救急救命に関する講習）〉

テーマ　「安全な歯科医療を提供するためのバイタルサインセミナー」
日　時　平成23年12月４日（日）　午前10：00～午後３：00
場　所　熊本県歯科医師会館　４Ｆホール
講　師　九州歯科大学　横山武志 教授（**歯学研究院 口腔顎顔面病態学講座 歯科麻酔学分野**）
対　象　会員・スタッフ
内　容　歯科医療を安全に行うための理解項目として必須であるバイタルサインの意義や安全を確保するための医療面談と全身の診方を習得していただきます。

※このセミナーは、改正医療法で義務付けられている「医療従事者の医療安全についての講習会」に該当しています。
※また、診療報酬の「歯科外来診療環境体制加算」算定に必要な施設基準の「所定の研修」にも該当していますので、セミナー終了後に会員の先生のみ『修了証』を発行いたします。

日歯大久保会長特別講演

歯科は、生きる力を支える生活の医療

10月８日（土）午後３時より県歯会館４階ホールにおいて日本歯科医師会大久保満男会長による特別講演が開催された。渡辺専務理事の司会により進行し、まず小島副会長により開会の辞があった。次に浦田会長よりお忙しい中、来熊いただいた日歯大久保会長、村上専務理事、柳川常務理事への御礼と今後の歯科医療とはどのようなビジョンを持つべきか直接お聞きできる機会が得られ、今後の我々の活動あるいは方向性の基盤とさせていただければとの挨拶あった。日歯村上専務理事より日歯会務現況概要では、日歯代議員会で協議された「福祉共済制度の見直しと保険業法への対応について」と「新法人への移行について」の２つの協議題において、福祉共済制度では、保険業法の対応のために制度の見直しを行い自主運営を行っていくということ、新法人への移行では福祉共済制度の自主運営を存続しながら公益社団法人への移行を目指していくことが承認されたことの詳しい報告があった。さらに福祉共済制度見直しに関する執行部の基本方針や診療報酬改定の改定率が出るまでの流れについて説明があった。柳川常務理事からは、東日本大震災の対応について、11日の災害対策本部を設置から全国に身元確認の出動要請を出すまでの経緯について説明があった。全国の都道府県からのべ約2600名が、身元確認に出動した。日歯が、昨年８月に大規模災害時の行動計画を策定したが、これから普及、啓発をして地元でも災害時の計画の見直しに利用してもらおうという矢先に今回の震災が起きた。今回の震災で大変苦労したのが、市町村の機能が麻痺したことだった。また今後の災害対策において今回のような複数の県に及ぶよう災害の場合、県単位では対応は難しいため複数の県が県境を越えて協力しあいながら当然やらないといけないので、ぜひ協定を結んでいただきたいとのことであった。

村上専務理事

柳川常務理事

大久保会長の講演会要旨

東北大震災関連について……始めに震災の義捐金や身元確認に出動された先生方への御礼があった。また身元確認作業をされたすべての方々に対して会誌を通じて送った、①まず私たちの身元確認作業は、ご遺体を悲しんで行方不明だと思って探し回ってご家族の下にご遺体を一刻でも早くお返しすること、②ご遺体の名前、住所がわかったときに始めてその方の存在がわかるわけで自分がどこの誰かわからずに埋葬されてしまうことがないようにする、そのアイデンティティの確保の最後の砦が身元確認でありそのためにもがんばりましょうという２つのメッセージについて話があった。日歯の課題として、今回の歯科医師のすごい活動を宣伝するつもりはないが、歴史の事実として後世に残すため中央公論から今度の震災で身元確認作業に行かれた方々の様々データーや感想を集めた一冊の本を、

大久保会長

出版する予定となっているとのこと。**生きる力を支える生活の医療ついては**……我々の仕事の意味あるいは意義の確認で、生きる力を支える生活の医療が歯科医療だと提言したこと。人は、動物とは違い自分の人生の意味、生活の意味を考える生き物であり、生きるためには、健康であることがいかに大切かあらゆる人に言っていること。また被災地の復興は、お金ではなく、一番大切なのは被災者の健康であり、復興させるのはそこに住んでいた被災者でなければならない。さらに災害が起きてから被災者の健康を守ろうとしても無理なのだから、平時から国民の健康を守るということをきちんと制度として作り上げておくことが大事ではないか、命を守る医療と生活を守る医療と同じ柱でどちらが大事というわけではない。同じ大事さで同じ太さの柱できちんと２本あり、そして国民の生命と健康を守るそれを我々や地方行政、国を含めた公の組織、全部でこれを支えていくという構図があってはじめて国民は、安心して生活することができる。生きる力をささえる生活の医療の中心を歯科医療が担っていくこと。

生活を考えた理由は、改めて考えると8020運動がある。**8020運動については**……私たちが考えていたこと以上にこの運動には意味があり、8020の実現だけが本当の目的ではなく、本当の目的は生きがいのある人生を送る。またもう一つ大事なことは、自分だけが80年生きればいいというものではなく妻や周囲の人も同じくらい生きてほしい。自分の地域社会の人々の80年も大事であるという発想になった時他者への思いがでてくる。今回の口腔保健法は、他者への思いこそがバックボーンの倫理、考え方であること。**TOOTH FAIRYについては**……撤去金属冠を送っていただき日本財団と協力し社会貢献事業としてミャンマーに学校を10校建設することができたこと。村や政府に直接貴重なお金を渡したりせず、現場主義で財団の職員が実際現地に入り現地の人たちと働きながら建物を作る。自分たちの手で作ったんだという認識をしてもらうという考えのもと行ったきたこと。**国内の事業として**……日本で初めての小児ホスピス（神奈川県大磯町）を作ったこと。子供の看病に疲れたご家族に、その施設にゆっくり宿泊してもらいエネルギーを蓄えてご自宅に戻ってもらうというもので一般的なホスピスとは異なるものであること。**8020運動の今後について**……平成元年始まった8020運動は、20年間で達成率が25％に伸びた。次の目標は、8020が50％超える社会にすることであるが、その達成には健康増進活動だけでは無理である。何が必要か？リスクの高い歯周病でる成人の30、40代の方々を診療所できちんと治療し、医療管理をしていくというシステムを作らなければここにはいかない。20本残らなくてもきちんと義歯を入れて、しっかり噛めるつまり咬合確保をしていれば健康達成度はそう低くならない。そういうデーターが出ており、不幸にして歯を失っても補綴の評価をしっかりしてきちんと噛めるそういう診療報酬制度を作るべきだ。さらに自分の身体そのものが悪くなって要介護が必要な人は、在宅を通しQOLを上げ、最後はあらゆる状況の人々が自分なりの生きがいのある人生を送ってもらう。歯科医師がきちんと医療を提供していくここをきちんとすべきであること。またこれから長寿社会を迎えてもっとも大事なのは歯科ですよという話をあらゆるところでしていること。**現在の国民皆保険制度の現状では**……問題は、あらゆる状況の患者さんたちがいかなる状況においても医療を受けられるという影に、私たちの犠牲の精神や厳しい状況でものすごく不満のある状況でも医療人としての責務を果たそうとしているということは、しっかり国民や政府に伝えなければならない。それを私は日本歯科医師会の大きな役割だと思っていること。**24年度改定では**……在宅を中心の介護保険の同時改定のためそこに焦点が絞られ議論は始まっていること。また過去の改定での改定前の流れなど多岐に亘るそれぞれの項目について詳しい説明があった。最後に世界最速で高齢化社会を迎えている日本の今後では、準備できないままにあっという間に高齢化社会が来たが、歯科医師会は、平均寿命に健康寿命（自立した生活ができる状態）を近づけ、健康寿命を伸ばすことを始めたい。8020を始めた頃は、いろんなデーターがなかったが、ここ10～15年でいろんなデーターが蓄積され、EBMが得られるようになり非常に喜ばしい。歯科界が全体としてこういうデーターを出しながら国民の健康を守ると同時に診療報酬としての歯科医療をきちんとしていこうという機運が高まっていると講演を締めくくられた。　　（広報　加藤　久雄）

理事会報告

来年度本県担当の学会は、しっかり準備を

― 第８回理事会 ―

10月24日（月）午後７時より県歯会館第１会議室において浦田会長ほか全役員出席のもと議長を浦田会長、議事録署名人を加藤、松本理事として第８回理事会が開催された。

開　会：小島副会長
挨　拶：浦田会長

10月８日に大久保日歯会長にご来熊いただき講演会を開催しました。大久保会長より日歯の方向性について直接お話いただき、生の声を先生方は聞かれたと思いますが、県歯としましても日歯の方針にしたがって対応をしていかなければならないと考えております。10月に入って、九州各県各種担当者会、九地連学会、ねんりんピック、全国学校歯科保健研究大会、九州口腔衛生学会と対応して参りました。特に九地連学会と全国学校歯科保健研究大会につきましては、来年度以降本県が担当することになりますので、今年度の他県の内容を参考としてしっかり準備を進めていきたいと思います。九地連学会の最後にペナントをもらった際に、おもてなしの心を第一にといった挨拶をしましたので、皆様もそのような心構えでご協力よろしくお願いいたします。本日も報告や協議事項がたくさんありますので、慎重審議の程よろしくお願いいたします。

会務報告：（自：９月26日～至：10月20日）

本会総務：理事会、常務理事会、大久保日歯会長講演会、県議会厚生・文教合同委員会、九州歯科医学大会、ねんりんピック2011健康フェア・歯科健康相談
学　　術：九州各県医療管理担当者会
社会保険：九州各県社保担当者会
地域保健：くまもと２１ヘルスプラン推進委員会、県健康づくり県民会議幹事会、九州各県地域保健担当者会
広　　報：笑顔ヘルＣ写真コンクール審査会、ＲＫＫラジオ「サタデースマイルステーション」収録
学校歯科：全国学校歯科保健研究大会
医療対策：医療相談苦情事例報告、九州各県医療管理担当者会
センター・介護：九州各県地域保健担当者会
総務・厚生：健康診断

学　　院：実習指導担当歯科衛生士研修会、インターンシップ研修、自衛隊隊内生活体験、推薦入試
国保組合：九州厚生局事務指導監督・県指導監査

以上、各担当役員より報告がなされた。

会務報告その２：

１．退会会員
・杉本 智子　会員（一般／八代）平成23年９月30日付け　歯科医院廃止のため
・津野田 壽　会員（終身／熊本市）平成23年10月５日　ご逝去
・熊本機能病院（特別／熊本市）平成23年10月５日付け　歯科閉鎖のため

２．表彰
・文部科学大臣表彰
坂井 満　会員（八代）
表彰式：第61回全国学校保健研究大会
10月27日（木）／静岡県
・熊本県高等学校保健功労者表彰
犬束　美尚　会員（玉名郡市）、
小田　哲也　会員（天草郡市）
表彰式：熊本県高等学校保健研究協議大会
１月20日（金）／熊本県

３．関係機関・団体からの役員等の推薦依頼
・熊本県医療対策協議会委員／県医療政策課
浦田　健二　会長
任期：委嘱の日から２年間
・高齢者にやさしい食環境整備のためのニーズ調査検討会／県健康づくり推進課
松岡　拓治　常務理事

任期：平成23年11月２日～平成24年３月31日
・日本歯科医師会歯科医師青色申告会全国連合会常任理事
前野　正春　会員
任期：平成23年４月１日～平成25年３月31日

４．名義後援使用依頼
・第60回「熊本小児保健研究会」／熊本小児保健研究会
・黄色い羽根募金運動／県角膜・腎臓バンク協会
・第11回熊本小児在宅ケア・人工呼吸療法研究会総会／熊本小児在宅人工呼吸療法研究会
・第４回九州山口口腔ケアシンポジウムin YAMAGUCHI／山口赤十字病院

５．適正受診の啓発に係るポスターへの名称掲載依頼

６．チラシ配布依頼
・在宅高齢者の「食べること」を支援するための栄養ケアチーム研修会
・日本政策金融公庫国民生活事業

７．平成24年度熊本県への予算要望
10月14日に、口腔保健センター補助金の増額並び施設設備の整備費の助成と事業税の特例措置の存続及び対応の２点についての要望書を自民党県連へ提出した。

８．第65回九州歯科医学大会の来賓
県知事や熊本市長を来賓として出席依頼するか否かは継続して検討する。

９．九州歯科医学大会の参加者数及び厚生行事結果

10．県議会厚生・文教合同部会
10月６日（木）に自民党県連で開催され、県庁担当部署より条例制定前後のフッ化物洗口事業の経過報告が行われた。

11．平成２３年度シニア倶楽部社会保険研修会
10月29日（土）午後３時よりホテルキャッスルにおいて開催する。

12．平成２３年度シニア倶楽部の運営
10月29日（土）午後５時よりホテルキャッスルにおいて開催する。

13．平成23年度熊本県学校保健会協力寄附金
1,113,000円（179名371口）の寄附金が集まったので、全会員にお礼状を10月14日付けで送付した。

14．笑顔ヘルC写真コンクール
10月17日（月）に審査会を開催し、応募総数80点から入賞８点を選出した。

15．委員会事業実施報告
学術委員会：「学術講演会」（９月２５日）

16．各会計９月末現況

17．11月行事予定

協　議：

１．新入会員の承認〔承認〕
久木田　大（熊本市・一般）、境　忠彦（菊池郡市・一般）、仲村　清範（八代・一般）計３名の入会を承認した。

２．研修登録医の推薦依頼〔承認〕
会員から申し出があり必要書類を確認し、推薦することとした。

３．熊本県議会議員との懇談会〔承認〕
今年も開催することとした。開催日程及び出席者は現在調整中である。

４．「受診時定額負担」導入反対の請願書〔承認〕
県議会へ請願書を１１月には提出することとした。
さらに、日歯から連絡があっている署名活動の実施について、会員及び各郡市へ周知することとした。

５．平成24年度各委員会概算要求協議日程（案）〔承認〕
公益法人制度改革に伴い、24年度より新しい会計基準で予算を作成するため、例年より早めに行うこととした。

６．熊本県歯科医師会共済互助規則の一部改正（案）〔承認〕
原案どおり承認し、３月の通常代議員会に提出することとした。

７．熊本県歯科医師会共済互助規則施行細則の一部改正（案）〔承認〕
原案どおり承認し、11月より施行することとした。

８．３月の通常代議員会・総会までのスケジュール〔承認〕
スケジュールに沿って、手続きを進めていくこととした。

９．その他
○10月30日（日）熊本市動植物園で開催される「歯の健康ランド」に、地域保健と広報より出席することとした。
○「熊本空港航空機事故総合訓練」について、次年度より出務者を見直すこととした。

10．理事の時間
八木常務理事より、公益法人制度改革に伴い、総会制と代議員会制の選択、新法人移行に伴う役員任期、会員種別について説明が行われた。

監事講評：片山監事、西野監事
閉　会：中嶋副会長

（広報　加藤　久雄）

熊本の偉人

「維新の若きサムライ、一井正典（いちのいまさつね）とその人脈たち」

＝日本歯科界のルーツを探る＝

日本歯科医史学会会員　**松本　晋一**

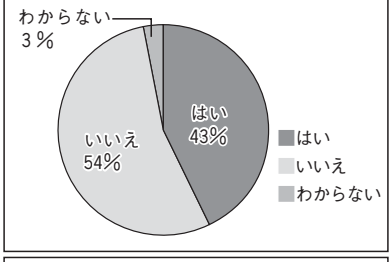
１、はじめに

この熊歯会報に一井正典のことを最初に紹介させていただいたのは、確か昭和48年（1973）の秋で「日本近代歯科の先人一井正典先生と私との出会い」と題したと記憶しております。その頃は東京品川の開業医で研修中の身で大学を卒業したばかりの年でした。

熊本上通りにご開業で当時会報の編集委員をされておられた栃原義人先生に「熊本出身で一井という人物が居られるのですが会員の方々もご存じでしょうか？」と相談したら、「一井正典先生は私（栃原）の研究している井野春毅先生に次ぐ本県の先覚であり、郷土出身の先輩の中でも国家的に功労の大きかった人物であるから県の会報に紹介を載せたらどうか」というお話を頂いたのが本紙投稿の最初でした。あれから38年ほどの時間が経過しましたが、この間、県歯会の各先生方のご好意で本紙にも数回にわたり一井正典先生を紹介する機会を得ましたし、県歯学会また日本歯科医学総会にも３回に渡り、ポスター発表等の機会をいただいております。

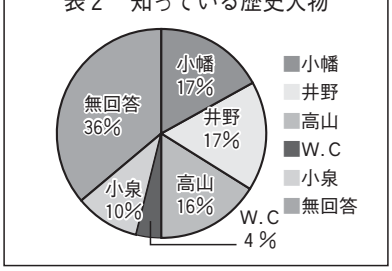
そういう中で本年1月、当会のお許しを得て本当に一井正典の知名度があるのか？同時に歯科の歴史的人物名他を含めて会員向けの認知度アンケートを実施致しました。その結果はアンケート送付者総数714通、回答者数は67通、回答率は9.4%。回答の年代は30代21%、40代28%、50代33%、60代13%、70代以上が３%です。一井正典の認知度は知っている43%、知らない54%、不明３%、一井の名前を認知した時期は10年前が31%、20年以上前が38%でした。

表１　一井正典を知っていますか？



歯科歴史人物名認知度についても小幡英之助と井野春毅が同数の17%、高山紀齋は16%、初代県歯会長の小泉猶次郎名は10%、日本初の西洋歯科医W.C.イーストレークの知名度は４%の回答率しかなく、無回答も36%でした。（表１、２）

表２　知っている歴史人物



この回答率の低さは、アンケートを白い紙で県歯会会員向け資料と共に封筒に入れた手法で、恐らく会員の皆さまのお目にとまらなかったものと思います。さらにファクスによる返信をお願いしたので、その面倒さなどが影響しているものかと思います。しかし回答数は少ないながら、そのデータからは貴重なご示唆（後述）を頂きましたことに改めて感謝申し上げます。

２、一井正典先生の人となり

実は来年６月には一井正典先生の生誕150周年を迎えます。そこで改めて一井正典（以下正典と略）の人物像をご紹介してみます。正典は文久２年（1861）６月８日、人吉相良城下、寺の馬場53番屋敷の生まれです。父は一井五郎（維新前は片岡一二）、郡奉行を務めた人物でその長男です。現在は人吉市寺町にあるカトリック人吉教会の在る所で、平成９年に人吉市歯科医師会により会創立50周年記念の折に生誕地標柱が立てられています（図１）。正典が生まれたその年の２月は人吉

図１　一井生誕地

の町が世に言う「寅助火事」で丸焼けとなり、相良家は大阪の商人や薩摩藩から借金、それが慶応元年の丑年騒動にまで発展するのです。

明治維新後、西南ノ役が勃発。前年には父が死去しており、正典は一家を代表して最年少の14歳で1番隊新加兵として薩摩軍に従軍します。しかし６月には官軍に降伏して入獄。この戦争前後の状況は一井正典の伝記「青雲遥かなり」（渋谷敦著・図２）に詳しく記載されておりますのでご一読いただければ幸いです。この戦争で人吉の町そして寺町の家も焼け、山田村（現山江村）に移転し農業に従事しながら当時の郡役所の筆耕を務めています。また叔父の赤坂孫六と共に商売をしたり

しています。その頃新町に新しく人吉公立病院（図３）が出来ることになり、赤坂の叔父と共に新しい公立病院建設のために多額の寄付をしております（今日では後継の人吉総合病院として地域の中核を担っており、現在建替え工事中で平成25年に新病院が完成予定）。そして明治17年、正典は江島五藤太の支援で思いきって上京することになります。

図２　伝記「青雲遥かなり」

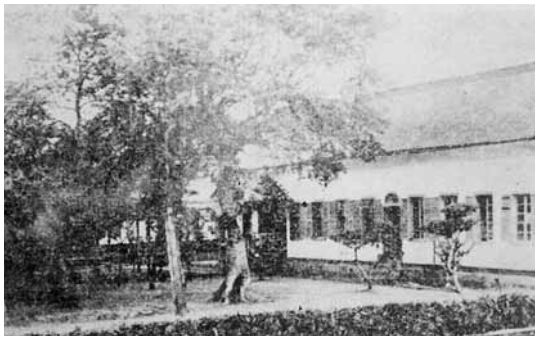


図３　人吉公立病院

江島は人吉町十軒町（今の紺屋町）で大きく紙問屋（図４）を営んでいた人物で後に出版所も併設しています。上京前そして上京後、さらには渡米から帰国後まで、江島は10数年に渡って精神的にも物質的にも正典を支援し続けるのです。

図４　江島五藤太商店

３、渡米までの経緯

上京した正典は、警視庁や駅逓局（郵便局）に勤務しているようです。恐らく明治17年前後から東京の築地あたりで美山貫一牧師と何らかの接点があり、同牧師の援助とその宗教上の影響を受けて渡米を決意したと思われます。美山貫一（図５）は明治10年に渡米し、ハワイの日本人移民の伝道にも活躍した人物です。そして明治18年（1885）年４月３日、米国船アラビック号で太平洋を渡るのです。その時の内容が「嗚呼光陰は矢の如し」という書き出しで一井の書簡が残っており、17日間の船旅が克明に記されています。例えば「４月３日晴、乗船の都合は前に記したればここに略す。いよいよ午前10時横浜を出航したり、しかし同12時頃より天漸やく雲あり午後1時になり少しく風波起こり為に同航の友人31名の内、酔苦せざるものほとんどなり３名はその難を遁れ即ち小生はその３名のうちの一人なり……」とあり、日本からの同行者の31名は最初から船酔いがあり渡米に難儀した様子が判ります。（この内容は人吉市ふるさと創生推進事業の一環として“在米、一井正典渡米報告書簡”として印刷記録されています）

図５　美山貫一牧師

17日間の船旅の後、サンフランシスコに入港、その後日本福音教会にしばらく滞在した後に、恐らくは美山牧師の世話でサンフランシスコの医院を閉院し、農園を始めた恩師ヴァンデンバーグ先生に雇われることになります。その場所はサンフランシスコから約50マイルも離れたロスガトスという村でした。当時の人口は約1500人、町にはまだ汽車もなく、大きな山々に囲まれた静かな山村です。当時正典が江島宛てに送った写真（図６）が残っています。その写真に「中央からこの尖ったる建物は小生が日曜日毎に参堂するロースゲトス・プレスビテリアンの会堂なり、その右は小学校とホテルなり、その右は小生の居住せるドクトルが家なり」という説明が残っています。このロスガトスのヴァンデンバーグ先生の旧宅には、この９月末に訪米の機会があり７年振りに再度ロスガトスを訪問しました。次回には今の現地の様子もご紹介したいと思います。　（続く）

図６　当時のロスガトスの町

歯を治すのは、愛の業

― 学術講演会 ―

学術委員会

9月25日（日）県歯会館4階大ホールにて、「保険適用の総義歯製作―高齢者に噛める喜びを―」と題し、大分県佐伯市にてご開業の河原英雄院長をお招きし学術講演会が開催された。209人の参加で県外からも6名ほどが聴講された。初めに県歯浦田会長より、今日の題目にもあるように高齢者に噛める喜びを持ってもらうために、8020を達成できなかった患者の口腔機能回復をいかに行っていくか、また日頃の臨床で県民の皆様に貢献していけるよう、実のある講演会にして頂ければと挨拶があった。

河原院長のこれまでの臨床の歴史を紐解きながら講演は始まった。昭和40年代当時の無歯科医地区診療において歯科治療と言えば抜歯のみという事に疑問を感じたとのこと。演者は抜歯した後の機能回復までを責任を持って診ていくべきと考え、当初から歯科医師として長期的な展望を描き、60歳以降の残りの歯科医師人生を無医村地区での診療にあたることを決めた。そこで、歯を無くした人が再び噛む喜びを思い出し、幸せな人生を過ごしていけるようにという視点からいかに噛める義歯を作るか、また患者とどのように向き合っていくかを真剣に考えた。開業当初まず行ったことが、患者の口腔内の清掃・歯石除去の徹底だった。口腔内を健康な状態に保つことの大切さを患者に納得がいくまで説明し、歯石取り、清掃、歯磨き指導を何度も繰り返した。歯内治療においては根充まで基本に忠実に１つ１つの工程を着実に行い、残存歯（将来鉤歯になるかもしれない）の治療を行う。補綴治療では咬合全体のバランスを考え、さらに歯周治療では咬合の安定を図るのみならず、病変をレントゲンで確認し患者に説明し長期間の経過をみる。どれも基本で当たり前の治療だが、その１つ１つの段階をきちんとクリアーしていかなければ治療の成功に繋がらないとした。そして欠損補綴の１つである

歯を無くした人が再び噛む喜びを

インプラント治療を始めたのは1977年、解剖実習から勉強をし、トラブルや事故を決して起こさない覚悟で治療を始めた。河原氏の治療の基本は咬合の崩壊を絶対避けるところにある。ジョージ・ワシントンを例に挙げ咬合崩壊が始まると目つき・顔つきが変わる。この時代、歯磨き習慣が無かったために咬合崩壊が起こり、噛めない・喋れない・笑えない人が多かったと考えられる。8000（80歳でなにも噛めない人）→8028Ｄ（80歳でしっかり噛める総義歯）の考え方が生まれた。

＜講師が考える総義歯作製時の注意点＞

・まず患者の顔を見て作ること
・体幹をイメージした中心咬合位に意識
・咬合高径をきちんと測り、中心咬合位をきちんと位置決めできれば必ず生体がなじむ為、咬合高径は安易に低く設定せず本来の咬合高径を守ることが大切
・咬合高径の平均値（68㎜～84㎜）男性77.2㎜　女性73.3㎜
・人工歯の色調はＡ－２、形態はＯ型、上顎１番はビーバー形状に配列
・機能改善のみならず見た目の若返りを期待するためにも、機能回復・咬合高径の回復、口元の改善、咬合安定、咀嚼などをチェック
・義歯完成時は、セット時にピーナッツ、リ

ンゴ、片口いわしなどで噛めるか否か、また義歯のガタツキがないかのチェックを必ず行う。
・咬合器付着時は必ずフェイスボーを使用し、正確に口腔状態を再現すること
・リマウント後の咬合調整まで正確に行う

＜義歯作製時の技工編＞

人工歯の配列時オーバージェット、オーバーバイトはあまり強くせず、チェックバイト時は上下を強く噛ませない事、ワックスに歯型が少し印記される程度とする。

咬合器付着した後は顆路の調整を行い側方顆路角7.5°前方顆路角30°で合わせる。この時点では臼歯部は離開している状態。その後臼歯部が当たるところまでの咬合調整は必ず下顎前歯で行う。

人は噛む事が健康に繋がり、健康でいるだけで世の中の役に立つことを患者と共に診療の中から学び、そのために歯科医師は保険点数にこだわらず、しっかり噛める義歯を患者に作る事を考えるべきである。今よりさらに一歩踏み出した日常診療、逃げない診療を心がけて欲しい。

「歯を治すは、愛の業」

きちんと機能回復して噛めるようにすることで初めて患者からの理解が得られる。患者と正面から向き合い噛めるようになれば患者からの信頼を得られると述べた。

質疑応答では体幹をイメージしてセントリックを決めると正確な義歯が出来上がるということだが、実際にはどのようにして行えばよいかという質問が出された。今のところそれに関するエビデンスは持たれていないとのことだったが、常に患者の姿勢を頭に置いて義歯の作製・調整しているとの回答であった。

最後に椿理事より謝辞があり、「河原先生の歯科医療の技術は勿論のこと、医療人としての考え方、患者への心構えを私たち臨床医はしっかり持ち続けさらに後世へ継承していかなければならない。この講演会で受講生が学んだ事は明日から役立つもので、有意義な講演会になったと思います。」と述べ盛況のうちに終了した。

（学術　有働　秀一）

お知らせ

日本歯科新聞では、第４回フォトコンテストを開催し、2012年のスタートを飾るにふさわしい写真を募集しています。最優秀賞は日本歯科新聞新春号の表紙を飾ります。

■締め切り　2011年12月２日（金）
■審査委員長　写真家　中嶋友彦氏（ごす企画代表）
■応募資格　歯科医療従事者、歯科学生、歯科関連大学、企業、団体に所属の方。
■選考基準　日本歯科新聞の新春特集号を飾るにふさわしいもの。テーマは特に設けません。デジタル写真、紙焼きとも可。デジタルはJPEGデータもしくはTIF、紙焼きは六ツ切サイズに限ります。
■賞・賞品　最優秀賞：賞状、賞金３万円（表紙にカラーで掲載）
優秀賞：賞状、賞金１万円　特別賞：賞状　　他
■発　　表　日本歯科新聞新春特集号（2012年１月１日付）紙面
■応募方法　写真タイトル、氏名、住所、電話番号、年齢、職業を記入の上、メールに添付して送付、または紙焼きもしくはデータの入ったCD-Rを郵送してください。応募作品は返却いたしません。予めご了承ください。
■送 付 先　〒101-0061　東京都千代田区三崎町2-20-4
㈱日本歯科新聞社「フォトコンテスト」係
E-mail jdl@yacht.ocn.ne.jp　☎03-3234-2475（担当：竹前・伊藤）

医療連携と在宅歯科医療の推進

― 社会保険指導者研修会 ―

社会保険委員会

9月26日（月）午前11時より東京・日本教育会館にて、平成23年度社会保険指導者研修会が開催された。

日本歯科医師会社保委員会の阿部義和委員長の司会進行により、日歯の豊嶋健治理事による開会の辞があった。厚生労働省保険局の唐沢審議官より、平成22年度改正以降の歯科の状況と東日本大震災における歯科医の働きについての話があった。次に、日歯大久保会長の挨拶があり、今年度衆参両議院一致で歯科口腔保健法が成立したこと、その元になるエビデンスとして、数年間、口腔状態と病気の関連性について調査し証明された結果の賜物である事などの話があった。

挨拶の後、「最近の社会保険を取り巻く状況について」と題して、日歯の堀憲郎常務理事と厚生労働省保険局の鳥山佳典歯科医療管理官の講演が行われた。堀常務理事の講演では、2009年の有識者会議の資料である「残存歯数と健康状態」や「かかりつけ歯科医師と生存率」などの歯科と生体の関連性の説明や2010年の国民歯科会議で発表した「在宅関連の歯科医療」が進まない理由などの話があった。さらに、鳥山歯科医療管理官の講演では、次期診療報酬改定に関する状況で、6年ぶりの医療・介護の同時改定であるので、在宅歯科医療の推進と障害者の歯科医療の推進を基本とする考えを話された。

休憩を挟んで午後より、基調講演として

がん患者の口腔ケアについての話もあった

「地域医療連携～現状と課題～」のテーマで以下の3名が講演された。まずは、静岡県立静岡がんセンターの大田洋二郎歯科口腔外科部長が「がん治療を支える歯科治療・口腔ケア－がん急性期医療からがん終末期医療まで－」と題して、がん患者の口腔ケアの実情を講演。次に、豊島区歯科医師会の高田靖専務理事が「地域医療連携に果たす口腔保健センターの役割」と題して、医科と口腔保健センターの連携の現状を講演。最後に、東京都歯科医師会高齢者保健医療常任委員会の細野純委員長が、「在宅歯科医療における地域医療連携…かかりつけ歯科医の役割…」と題して、実際の訪問診療の現状と課題を講演された。その後、3名によるパネルディスカッションが行われて、閉会となった。

（社会保険　田中　文丸）

郡市会だより

地震などの災害に備えて

― 総合防災訓練 ―

荒尾

9月4日（日）午前9時より、荒尾市立緑が丘小学校において平成23年度荒尾市総合防災訓練があった。荒歯会を代表して田中正会員、弥山会員、蔵本茂禎会員の3名と参加した。

これは荒尾市の行政、消防、警察、建設業協会といった関係団体と共に、有明海を震源とする震度6強の直下型地震が発生したと想定し、各団体との連携と手順を確かめる訓練であった。

開始当初、小雨が降るあいにくの天候であったが、3月の東日本大震災の後の訓練だけに、例年以上の一般見学者が見守る中始まった。

高校生も参加

防災ヘリコプターによる救急搬送訓練、警察、消防団、建設業協会による瓦礫の撤去、通行路の確保、管工事組合による仮設水道設置訓練。医師会と合同で救出救護訓練として、負傷者役の有明高校看護科生徒に対し8月に研修を受けた一次トリアージを実践した。

身体確認訓練

またこの後、レスキュー隊が倒壊した家屋から負傷者を救出する訓練では、遺体安置所に搬送されてきたご遺体の歯型による身元確認訓練を警察署員立ち会いの下で行った。

先月の救急救命講習もそうであるが、人生の中で出来れば遭遇したくない事象である反面、実際遭遇した場合「知っている」と「出来る」とではきっと大きな違いになる非常に貴重な体験をする事が出来た。

（坂田　輝之）

懇談に花が咲く

― タウンミーティング ―

球磨

9月22日（木）午後7時より人吉市鍋屋本館において県歯より浦田会長と渡辺専務理事をお迎えしタウンミーティングが開催された。

山村専務理事の司会により進行し秋山喬会長より「本日は人数も少ないし直接会長や専務理事と話せる良い機会であり、楽しい実りある有意義な会にしたいと思う」と挨拶があった。

会務報告

- 東日本大震災の支援（県の支援金総額、8,597,000円）
- 23年度事業計画
- 公益法人制度改革（移行登記による役員の任期。県歯は一般法人化予定）
- 地域歯科保健活動概要
  早産予防　糖尿病対策　メタボリックシンドローム対策をターゲットとして歯科受診奨励システムを構築する
  むし歯予防対策事業
  県条例制定によりフッ化物塗布および洗口事業を行う
  8020支援事業
  歯と全身の健康に関する地域支援　歯周病ハイリスク者の支援に関する医療機関連携の推進
- 口腔保健センターの現状と今後の役割

等報告が行われた。

その後事前質問に移り

事前質問1　野田新政権に対する県歯の対応

回答　首相が変わっても訴えることは同じで歯科保健は生活を支える大事な保健事業ということを主張したい。新規の口腔保健事業を絵に描いた餅にしないため今よりももっと切れ目のない健診体制を取りたいしもっと歯科医療のニーズを拡大し24年点数改正も満足のゆくものにしていきたい。

県歯会長・専務と話せるよい機会であった

事前質問2　遠隔地の郡市歯科医師会の不便さ

回答　地方で分散しての講演会など行ってみたが好評とは言いがたい。Web等を使用しての会議は、費用面、手段の煩雑さ等から実用には問題がある。しかしなんとか手段を考慮していきたい。

その後懇親会に移行し夕食を兼ねての球磨郡会員と浦田会長、渡辺専務理事との懇談に花が咲いた。最後に球磨郡梁副会長の閉会の辞で盛会のうちに終了した。

（高野　秀司）

郡市会だより

3名の新入会員を迎えて

— 福寿会 —

9月30日（金）午後7時より玉名市内の料亭「山路」にて福寿会が行われた。

この会は、玉名郡市の60才以上の会員を招待して催される会である。今年は福寿会、執行部合わせて20名以上の参加があった。

まず冨永会長の開会の辞があり、続いて北田会員の挨拶の後、福富会員の音頭で乾杯を行い宴会が始まった。宴会では発足当時のエピソードやこれからの玉名郡市歯科医師会のあり方についての諸先生方のアドバイスがあり、2時間という限られた時間ではあったが大変勉強になった。

今年度より福寿会に入会された安田会員、小林会員、森会員3人に節目にあたってのお気持ちを一言ずつ頂いた。最後に増田会員の挨拶と締めでお開きとなった。（永廣　有伸）

参加者全員で記念撮影

玉名

顎骨壊死を起こさない為の予防が大切

— 学術講演会 —

9月16日（金）19時30分より、玉名文化センター大ホールにおいて、玉名郡市学術講演会が開催された。講師に九州大学附属病院顎顔面口腔外科の中村誠司教授をお招きし「ビスホスホネート系薬剤の投与を受けている患者さんの顎骨壊死」と題し講演頂いた。

ビスホスホネート系薬剤は、高い骨吸収抑制作用を有し、骨吸収亢進を呈する様々な骨代謝疾患において有用性が報告されている。その代表的疾患が骨粗鬆症で、国内外のガイドラインで骨粗鬆症治療薬の第一選択になっている。又悪性腫瘍による高カルシウム血症、固定癌の骨転移、多発性骨髄腫においても、骨痛や骨折などの合併症の抑制に有効と報告されており、国内外のガイドラインで推奨される癌の支持療法となっている。

近年、ビスホスホネート系薬剤の副作用のひとつとして顎骨壊死が報告され、注目を集めている。現時点では、ビスホスホネート系薬剤による顎骨壊死については発症機序が明確ではなく、予防法や対処方法も確立されてはいない。そのため、歯科医師や医師の間で不安感が広がっているのが現状である。ビスホスホネート系薬剤による顎骨壊死は一旦発症すると極めて難治性であり、最悪の場合には顎骨を失ってしまうこともあるので、発症させないことが第一である。多くの場合がビスホスホネート系薬剤の投与中に抜歯を行った後に発症していることからも、歯科医師は医師や薬剤師との連携を図り、患者さんからインフォームドコンセントを取り、的確に対応することが求められている。このように、歯科医師はビスホスホネート系薬剤による顎骨壊死を予防する、惹起しない、そして不幸にして発症した場合には適切に治療、管理することが必要である。

中村教授の講演後に謝辞を述べる冨永会長

講演の中でまずは顎骨壊死を起こさない為の予防の大切さを何度も訴えられ、顎骨壊死を起こした患者への治療ガイドラインなどについて症例を交えながら分かりやすい説明があった。

ビスホスホネート系薬剤を投与された患者がこれからますます増え続けて行く今日、ビスホスホネート系薬剤による顎骨壊死を引き起こさないためにも、私たち歯科医師はガイドラインを守っていかなければならないと思った。（永廣　有伸）

郡市会だより

口腔癌の見落としに注意

― 第１回４郡市合同学術懇話会 ―

水俣・芦北

９月10日（土）、水俣総合医療センター５Ｆ会議室で、第１回４郡市合同学術懇話会が行われた。われわれの郡市歯科医師会は周知の通り、北薩地区と隣接している。その中核病院として水俣総合医療センターが存在するわけであるが、数年前より同センターを中心とした医科を含めた病診連携としての交流があった。今回、歯科知識向上ならび医科歯科連携を深める為にこの懇話会を開催する運びとなった。

第１回は伊佐歯科医師会の主催で、鹿児島大学歯学部第二口腔外科　中村典史教授をお招きして、「医科歯科連携における口腔疾患の診断」と題して、ご講演頂いた。口腔粘膜疾患の診断で、一番重要なのは癌であるのは言うまでもない。平成16年度　福岡医事処理案の結果別分類によると、口腔癌の見落としなどが認められた。われわれ、一般開業医が遭遇する機会は稀である。また、教科書や試験に出題されるような明らかな癌に遭遇する機会はもっと少なくなる。口腔癌の原因として歯に起因するものは多い。口腔粘膜に潰瘍が存在する場合には歯牙鋭縁や義歯に起因するものが殆どであるが、それにとらわれ過ぎると見落としにつながる。鋭縁削合や義歯調整などを２週間行っても症状に改善が認められない場合や周囲に硬結を認める時には、癌を疑って生検を行う。その生検であるが、明らかに癌であるという場合を除いては、基本的に自分で施行してみることが大切ということである。その場合は、病変の真上を行わずに、必ず縁の健常組織を含めて切除する。その他、前癌病変（白板症、紅板症）、前癌状態（扁平苔癬、鉄欠乏性貧血、梅毒性口内炎）の診断と治療、口腔乾燥症や口腔カンジタ症の概論をご教授して頂いた。

中村教授の講演を真剣に聞き入る。

鹿児島大学では、口腔癌患者に対して医師やコ・メディカルと連携して口腔ケアや栄養管理を行っている。これは口腔癌患者に関してだけでない。高齢者の誤嚥性肺炎による死亡率は高くその予防は大切である。その為にも、上記の連携は今後ますます必要となってくる。講演後は、場所をあらせに移して県境を越えた交流をおこなった。

謝辞：当日、会場におけるお世話をして頂きました（株）UKデンタルの東　龍達氏にこの場をお借り致しまして、厚くお礼を申し上げます。

（井上　真樹）

郡市会だより

糖尿病患者には、医科歯科の連携した取り組みが重要

― 学術講演会 ―

人吉

9月28日（水）9月定例会後の午後7時45分より、あゆの里2階エルダンジュにて、回生会堤病院　山口康平院長を講師に、「歯科治療に役立つ糖尿病の基礎知識」と題して、人吉市歯科医師会学術講演会が開催された。

これは、年々増え続ける糖尿病患者に対して、人歯会も医科歯科連携の推進に努めているが、会員がさらに糖尿病をよく理解して、より良い診療を目指せるようにとの目的で、また日本糖尿病協会の歯科医師登録医のための認定講習会として執り行われた。

中原専務理事開会の辞、今藤隆文会長挨拶、講師紹介の後以下の内容で早速講演に移った。

- 糖尿病の疫学的事項
- 糖尿病の病態と診断
- 合併症について
- 食事療法・運動療法のポイント
- 薬物療法の進歩、特にインクレチン関連薬について
- 低血糖について
- 日常生活の注意事項

糖尿病は、インスリン作用の不足による慢性高血糖を主徴とする生活習慣病で、インスリン依存型と非依存型があり、脂肪摂取量と相関し、高カロリーとは相関しない。

2010年7月より新しく改訂された診断基準の主なポイントは、今までは診断基準の補助的な位置づけであったHbA1cを、糖尿病型の判定基準に取り入れたこと。また、HbA1c（国際標準値）（%）は現行のJDS値で表記されたHbA1c（JDS値）（%）に0.4%を加えた値で表記すること。HbA1c（国際標準値）≧6.5%（HbA1c（JDS値）≧6.1%）。

3大合併症は「しめじ」、いわゆる**神経障害・眼（網膜症）・腎症**で、6大合併症は3大合併症に、**壊疽・動脈硬化・歯周病**を加えたものである。

慢性合併症では、動脈硬化が著明で、特に細かな血管が侵されやすく、侵された場合血管が再生されるが、これは非常に脆いものであること。無症状に進行した合併症は、進行すると後戻りできず最近は「高血糖メモリー」という“過去にどのくらいの高血糖に、どの程度の期間曝露されたかが、その後の糖尿病血管合併症の進展を左右する”という概念が注目されてきている。

丁寧に説明して頂いた

CKD（慢性腎臓病）は、腎障害と腎機能の低下のいずれか、または両方が3ヶ月以上続いている状態で、透析患者さんは全国で26万人にものぼり500人に1人の割合である。

糖尿病足病変は、間欠性跛行を認め進行すると足の切断に繋がる可能性があり、これは体重が加わることも一因となりうる。

近年、インクレチンが血糖依存的に血糖値をコントロールする作用（血糖値を下げすぎない作用機序）に注目が集まっており、関連薬が次々と開発され、2型糖尿病患者さんには今後に期待されている。尚低血糖は、空腹感・冷や汗・震え・動悸・意識消失、そして昏睡などの症状を認め、日常生活では注意が必要である。

予防としては、血糖値だけでなく血圧と脂質も確実に管理することが何よりも重要であり、週3回の運動でHDLも上昇する。

講演終了後、質疑応答に入り会員からは活発な質問が出されたが、予定時間を超過してまで、山口院長には専門医の立場から懇切丁寧に回答して頂いた。

その後、與田副会長の謝辞に続き、中原専務理事の閉会の辞をもって講演会を終了した。

現在「糖尿病と歯周病」がクローズアップされているが、我々歯科医師にとっても、医科との医療連携は必要不可欠であり、人歯会としては、今後も関係機関とも協力体制を築きながら、診療を行っていくことの重大さを痛感した。

（斉藤　健三）

郡市会だより

八代

病院歯科の設置を願う

― 総会 ―

9月24日（土）午後3時よりエルセルモ八代アルデアアルカサールにおいて平成23年度総会が開催された。中山専務理事の司会進行のもと上田龍吾副会長の開式の辞に続き、議長に福田会員、副議長に上田博会員、また議事録署名人に宮本名留彦・宮﨑両会員が選出された。最初に中川会長の挨拶があり、執行部への協力に対する感謝を述べられるとともに八代における病院歯科の必要性を会員に向けて強く訴えられた。

その後会務報告があり、続いて10月1日付けで入会される仲村清範会員の紹介、本人の挨拶に会員一同温かい拍手で応え入会を喜んだ。

次に議事に移り公益法人改革に伴う一般社団法人への移行の承認を求める件などを含む第1号～第5号議案は、すべて満場一致で可決承認された。その他、現在行なわれている5年に1度の八代保健所の立ち入り検査について、最初に検査を受けられた中川会長より内容の詳しい説明がありとても参考になった。活発な質疑応答の後、上田副会長の閉式の辞によって総会は終了した。

しばらくの休憩の後に隣のパーティー会場に場所を移し懇親会が行われた。浦田県歯会長、衆議院議員、県議、市議等多数の来賓が出席され数名の方よりお言葉を賜り乾杯となった。地域行政、地域保健を担う来賓の方々はもうすっかり顔なじみでありお互いの近況を話しながら注しつ注されつの楽しく賑やかな会となった。あっという間に予定の時刻は過ぎて上三垣会員の万歳三唱にて懇親会は終了となった。

「病院歯科の設置は急務です」と中川会長

この機を逃すまいと議員の方たちとの語らいの中で中川会長が病院歯科の重要性を強くアピールされていた。確かに熊本第2の都市八代に病院歯科が存在しないのはおかしいと思う。これからは病院歯科が我々歯科医師にとって、また何より住民のquality of life にとって必要不可欠なものであるという認識を獲得するため一丸となって行政に働きかけ続けていく事が必要であろう。（岩崎　晃司）

千場会員シニアの部で3連覇

― 全日本歯科医師ソフトテニス大会 ―

10月9日（日）に大阪のマリンテニスパークに於いて、第57回全日本歯科医師ソフトテニス大会が開催されました。

大会前日には大阪なんばワシントンホテルで前夜祭がり、大会会長の大阪府歯科医師会太田会長、日本歯科医師ソフトテニス連盟土橋会長からの挨拶があった。

大会当日は絶好のテニス日和の下で午前9時より開会式の後、試合が行われた。熊本県からは千場敏昭会員、川瀬博美会員の2名が参加し、個人戦シニアの部で千場会員が3年連続で優勝、OBの部で川瀬会員も2位の好成績を収めた。

試合後はビアパーティーの懇親会が行われ、来年開催の東京都有明テニスコートでの再会を約束して終了した。　（千場　敏昭）

訃　　報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

津野田　壽 先生
平成23年10月５日　ご逝去　95歳

●郡　市　名：熊本市
●入会年月日：昭和26年２月３日

嘉悦　憲文 先生
平成23年10月19日　ご逝去　58歳

●郡　市　名：上益城郡
●入会年月日：昭和60年６月25日

新入会員 NEW

①今もっとも関心のあることは何ですか。
②自分が希望する歯科診療とはどのようなものですか。
③他の歯科医院にはない自分の医院の特色を教えてください。
④今後の抱負は何ですか。

一般会員

仲村　清範
（ナカムラ　キヨノリ）

八代市坂本町坂本4139-1
なかよし歯科医院

①患者数
②患者さんが納得し、喜んで頂ける診療を望みます。
③まだまだかけ出しですが、徐々に特色が出るよう努力します。
④歯科診療を通し、地域に少しでも貢献できるよう努力します。

境　　忠彦
（サカイ　タダヒコ）

菊池郡菊陽町
光の森2-3-9
さかい歯科クリニック

①全身疾患のある患者の歯科治療
インプラント治療
②子供から老人まですべての患者様が満足のいく歯科治療。
③現在模索中です。
④地域の人々に愛されるような歯科医院をつくっていきたいです。

久木田　大
（クキタ　ダイ）

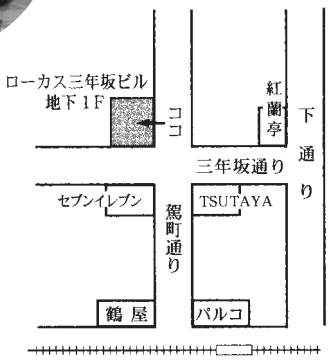
熊本市湖東２丁目41-6
くきた歯科クリニック

①ＭＩの考え方に基づいた、ナノケアなどによるエナメル質の再石灰化とコンポジットレジンを使用した審美修復です。
②倫理感を持ち、なるべく削らず、かつ美しい口腔内を長期的に維持する事ができるような診療です。
③「和ごみ」をテーマとした和の空間演出で、落ち着いて治療をして頂ける空間です。又、しっかりとした治療を行う事はもちろんですが、患者さんが喜ぶ、付加的サービスを行う医院である事です。
④ＭＩの考え方を中心に、より包括的に治療を行えるように、日々努力をしていきたいと思っております。

ニューグルメハンター

すし元（げん）

○所在地
〒860-0801
熊本市安政町6-1
ローカス三年坂ビル　B1
駕町通り側に入り口があります。
☎090-9312-1820
17：00～翌４：00
○店の雰囲気、客層
自営業の方が多いです。
○収容人数・席数
カウンター９席
座敷　　４席
○店長の紹介
飲食業に就いて10年。９月にオープンしたばかりです。
20代若い夫妻で明るく営んでます。安心して入りやすいお店です。
○料理の種類・特徴・お酒の種類
すし（にぎり・巻物）、一品料理
１貫50円～料金明瞭
コース料理はご予約のみ、ご予算に応じます。
瓶ビール、焼酎、日本酒あります。



会　務　報　告

自　平成23年９月26日
至　平成23年10月20日

H.23.11

所管	日付	摘要	出席
総　務	９月27日	第36回九州地方社会保険医療協議会熊本部会（熊本市国際交流会館）	中嶋副会長
		熊本空港航空機事故総合訓練（熊本空港）	渡辺専務理事他会員５名、澤田事務局長
	28日	第７回理事会　（１）新入会員の承認（２）熊本県体育協会からの免税募金のお願い （３）笑顔ヘルCキャンペーンの実施要領（案）ほか	浦田会長他加藤理事を除く全役員、伊藤学院長
	30日	会計打合せ	八木常務理事、吉永会計士
	10月２日	県歯剣道部壮行会（熊本市）	浦田会長
	３日	ねんりんピック健康フェア相談コーナー打合せ会 （１）当日準備品の確認（２）相談対応方法	宮坂副会長
		総合政策推進プロジェクト会議 （１）未入会者対策チラシ作成（２）名簿確認（３）研修会の開催　ほか	小島副会長、渡辺専務理事、八木常務理事、牛島・椿理事、伊藤学院長
	４日	県医療・保健・福祉連携学会第３回企画委員会（県医師会館）	小島副会長
	５日	第13回常務理事会 （１）新入会員の承認（２）適正受診の啓発に係るポスターへの名称掲載依頼 （３）第４回九州山口口腔ケアシンポジウムin YAMAGUCHIの名義後援使用依頼　ほか	浦田会長他常務理事以上全役員、牛島理事
	６日	県議会厚生・文教合同部会（自民党県連）	宮坂副会長、大林理事
	７日	故津野田壽会員（熊本市）告別式弔辞奉呈（熊本市）	浦田会長
		救急医療講演会（ホテルニュースカイ）	浦田会長、小島副会長、渡辺専務理事、牛島理事
		月次監査　９月末現況監査	片山・西野監事
	８日	日歯大久保会長講演会 受講者：132名	浦田会長、小島副会長、渡辺専務理事、八木常務理事
	11日	労務管理打合せ	渡辺専務理事、八木常務理事
	12日	第１回県保健医療推進協議会（県庁）	浦田会長
		第720回支払基金幹事会（支払基金）	浦田会長
	14日	ねんりんピック2011健康フェア・歯科健康相談コーナー設営（グランメッセ熊本）	宮坂副会長
		日歯役員時局講演会（長崎市サンプリエール）	浦田会長
	15日	九州歯科医学大会厚生行事（至16日）（長崎県各所）	浦田会長、中嶋副会長、渡辺専務理事、松岡・八木常務理事、牛島・椿理事
		ねんりんピック2011健康フェア・歯科健康相談（グランメッセ熊本） 相談者：138名	宮坂副会長・二宮委員
		ねんりんピック2011熊本総合開会式（KKWING)	宮坂副会長
		九地連役員会（長崎ブリックホール）	浦田会長
		九州歯科医学大会受付事務職員説明会（長崎ブリックホール）	澤田事務局長他３名
		九州歯科医学大会（長崎ブリックホール） 大会参加者：28名	浦田会長、中嶋副会長、渡辺専務理事、松岡・八木常務理事、牛島・椿理事
	16日	ねんりんピック2011健康フェア・歯科健康相談（グランメッセ熊本） 相談者：200名	宮坂副会長、宮崎・勇委員
	17日	ねんりんピック2011健康フェア・歯科健康相談（グランメッセ熊本） 相談者：168名	宮坂副会長、田上理事

所管	日付	摘要	出席
総　務	17日	県警察歯科医会研修会事前打合せ	小島副会長、渡辺専務理事、伊藤学院長、牛島理事、矢毛石陸男会員
	18日	ねんりんピック2011熊本総合閉会式（崇城大学市民ホール）	浦田会長
	19日	第14回常務理事会　（１）新入会員の承認（２）研修登録医の推薦依頼 （３）「受診時定額負担」導入反対の請願書　ほか	浦田会長他常務理事以上全役員・牛島理事
学　術	９月30日	学術小委員会 九州各県医療管理担当者会打合せ	椿理事、添島委員長他２委員
	10月１日	九州各県医療管理担当者会	浦田会長、小島副会長、渡辺専務理事、椿理事、添島委員長他全委員
	14日	学術委員会 （１）日歯生涯研修DVDセミナー及び会員発表役割分担（２）２月以降のスケジュール	椿理事、井上副委員長他５委員
社会保険	９月26日	社会保険指導者研修会（東京・日本教育会館）	田中委員長
	28日	社会保険個別相談（小国町）　相談者：１名	隈井委員
	29日	保険個別指導（県庁）	中村悟・金本・橋本委員
	10月１日	九州各県社保担当者会（ホテル・レクストン鹿児島）	前田理事、清水・反後副委員長
	６日	第２回日歯疑義解釈委員会（日歯会館）	前田理事
	19日	保険個別指導（KKRホテル）	田中委員長、反後副委員長、桐野委員
地域保健	９月26日	第１回くまもと21ヘルスプラン推進委員会（県庁）	田上理事
	10月１日	県糖尿病対策推進会議実務者研修会（八代市医師会館）	松下哲也会員
	１日	九州各県地域保健担当者会（沖縄県歯会館）	田上理事、川瀬委員長
	４日	第２回笑顔ヘルCキャンペーン打合せ （１）笑顔ヘルCキャンペーン中央イベント（２）写真コンクール	宮坂副会長、渡辺専務理事、田上・加藤理事、川瀬委員長
	11日	県健康づくり県民会議幹事会（県庁）	田上理事
	16日	笑顔ヘルCキャンペーン無料歯科相談〔人吉市〕（人吉市スポーツパレス）	人吉市会員
広　報	９月28日	都道府県広報担当理事連絡協議会（日歯会館）	加藤理事
	30日	広報小委員会 （１）会報10月号・第２回校正	加藤理事、佐藤委員長他１委員
	10月１日	九州各県広報担当者会（福岡県歯会館）	加藤理事、立本副委員長
	14日	広報委員会　（１）会報11月号・編集	加藤理事、佐藤委員長他全委員
	17日	笑顔ヘルC写真コンクール審査会 （１）笑顔ヘルC写真コンクール審査	加藤理事、立本副委員長
	19日	RKKラジオ「サタデースマイルステーション」収録（熊本市）	加藤理事
学校歯科	９月30日	県高等学校保健会第２回理事会（熊本高校）	宮坂副会長
	10月13日	学校歯科委員会（１）口腔衛生学会（２）第75回学校歯科保健研究大会（愛媛） （３）ねんりんピック　ほか	大林理事、河原委員長他全委員
	20日	第75回全国学校歯科保健研究大会（愛媛県県民文化会館）	浦田会長、大林理事、河原委員長、田畑・勇委員
		県PTA災害見舞金安全会判定審査委員会（県総合福祉センター）	西野監事
		第62回全国学校保健研究大会熊本大会第２回準備委員会（県庁）	澤田事務局長

所管	日付	摘要	出席
医療対策	10月１日	九州各県医療管理担当者会	冨屋理事、岡田委員長
	７日	菊池郡市医療安全管理対策研修会（菊池国際ホテル笹の家）	岡田委員長
	19日	医療相談　紛争事例への対応	冨屋理事、永松副委員長
センター･介護	９月29日	口腔保健センター従事者医療対策研修会 センター出務者：21名	松岡常務理事、冨屋・松本理事他６委員
	30日	口腔保健センターカルテ・会計チェック（口腔保健センター）	五島委員
	10月１日	九州各県地域保健担当者会（沖縄県歯会館）	松本理事、平井委員長
	８日	歯科衛生士会との打合せ　（１）県歯科衛生士会リーダー育成研修会	松本理事
	13日	センター・介護委員会　（１）九州口腔衛生学会	宮坂副会長、松本理事他３委員
	14日	口腔機能・栄養改善研修会（菊陽町）	松岡常務理事
	20日	県介護支援専門員更新研修（熊本交通センターホテル）	松岡常務理事
総務･厚生	９月29日	総務・厚生小委員会 （１）10／30警察歯科医会研修会（２）代診派遣制度実施要領の見直し（３）健康診断	牛島理事、池嶋委員長他３委員
	10月１日	下益城郡健康診断（宇城市働く婦人の家）	宮井祐委員、兼子賢之会員
	７日	菊池郡市健康診断（菊池郡市医師会立病院）	林秀樹会員
	８日	八代健康診断（八代市医師会健診検査センター）	木原良材会員
	13日	菊池郡市健康診断（菊池郡市医師会立病院）	林秀樹会員
	14日	菊池郡市健康診断（菊池郡市医師会立病院）	林秀樹会員
	15日	天草郡市健康診断（天草地域健診センター）	長山千帆委員、松本信久会員
		八代健康診断（八代市医師会健診検査センター）	木原良材会員
	20日	第58回熊本有病者歯科医療研究会・講演会（熊本医療センター）	牛島理事
学　　院	９月26日	学院始業式	伊藤学院長
		専任教員研修会 講師：木尾九歯大准教授	伊藤学院長、逢坂副学院長、専任教員６名
	30日	学院実習指導担当歯科衛生士研修会	浦田会長、伊藤学院長他７委員
	10月１日	学院インターンシップ研修（至２日）　高校生：９名	伊藤学院長、逢坂副学院長
	12日	学院自衛隊隊内生活体験（至14日）（自衛隊北熊本駐屯地）　１年生Ａ班：23名	伊藤学院長他２名
	18日	学院入学試験委員会	浦田会長、伊藤学院長他６委員
	19日	学院自衛隊隊内生活体験（至21日）（自衛隊北熊本駐屯地） １年生Ｂ班：24名	伊藤学院長他２名
国保組合	９月26日	社会保険指導者研修会（東京・日本教育会館）	桑田常務理事
	29日	全協理事長・役員研修会（八重洲富士屋ホテル）	浦田理事長
	10月６日	全歯連通常総会（日歯会館）	浦田理事長
	11日	第５回国保理事会　（１）高齢者健康対策事業	浦田理事長他全役員
	19日	九州厚生局国民健康保険事務指導監督・県国民健康保険指導監査	上野副理事長、桑田常務理事
事 業 課	９月29日	第１回奥様医業経営塾（第２講）　受講者：８名	
	10月６日	第２回奥様医業経営塾（第１講）　受講者：７名	牛島理事
	13日	第１回奥様医業経営塾（第３講）　受講者：７名	
	20日	第２回奥様医業経営塾（第２講）　受講者：６名	

事業課からのご案内

その1

団体定期（歯科医師会専用グループ保険）のご案内

保険期間　平成23年8月1日から1年間（中途加入できます）

★最高「２８００万円」保障！無診査で加入 OK！
★配偶者も１０００万円まで加入 OK！
★１年更新で配当金は加入者へ還元！
★個人保険より団体保険が安い！
★入院保障も１日１５,０００円まで OK！

団体定期保険は歯科医師会が契約者になり保険料を一括納付しています。
会員だけがいつでも自由に加入できる制度です。**是非ご加入下さい！**

その2

個人でご加入の保険も保険料納付は団体収納扱いでお願いします!

下記の保険会社と団体収納契約をしておりますので、歯科医師会の口座引落しがご利用できます。
保険料が団体割引でお安くなります。ご加入の保険内容に影響はありません。
手続きは簡単です。事務局が代行します。**是非ご利用下さい！**

かんぽ生命	第一生命	住友生命
日本生命	T&D ﾌｨﾅﾝｼｬﾙ生命	明治安田生命
朝日生命	富国生命	ｱﾒﾘｶﾝﾌｧﾐﾘｰ生命
ﾒｯﾄﾗｲﾌｱﾘｺ	損保ジャパンひまわり生命	三井生命

＊詳細につきましては　県歯事務局 TEL:096-343-8020 担当　田尻　までご連絡ください

12 行事予定

4日（日）	バイタルサインセミナー
7日（水）	第17回常務理事会
10日（土）	第２回各郡市 会長・専務理事連絡会議
14日（水）	第18回常務理事会
22日（木）	第10回理事会

熊本県ご当地よ坊さん

編集後記

先日、家のソファーに白っぽい石みたいなのが落ちていた。何かなと手に取ってみると、
小さな歯石がいっぱい着いている歯だった。とてもびっくりした。誰のだろう？ひょっとしたら仕事で抜歯をして、白衣やズボンに紛れ込んだのかなど思いをめぐらすがわからなかった。その後そのことをすっかり忘れていたのだが、数日後ふとした瞬間、あー、ひょっとしたらと我が家の愛犬ココちゃんの口の中を見ると、左上の側切歯の歯が無かった。ココちゃんの歯だったんだ、そういえば最近口臭がきついなーと思っていた。他の歯も気になり口の中を恐る恐るみると、抜けた歯と同じように多量の歯石の付着を認め、動揺もあり歯周病にかかっているみたいだ。現在ココちゃんはあと１月で9才、人間の年齢では結構な年である。家族からは 歯医者でしょう？なんとかしてよ！といわれるが……どうも出来そうにない。会員の先生の中にはペットの歯の管理をしている人がいるのか、もしいれば尊敬します。（Y.N）

くまもとサプライズキャラクター『くまモン』
くまもとサプライズ熊本県許可第1086号

8020 歯からはじめる。笑顔ヘルC

発行日／2011年11月15日発行
発行人／浦田 健二
発行所／社団法人 熊本県歯科医師会 〒860-0863 熊本市坪井2丁目4-15
TEL.096-343-8020 FAX.096-343-0623
URL http://www.kuma8020.com
印刷所／コロニー印刷